



GLOBAL MAPPING NEWSLETTER 31

地球地図フォーラム 2003 in 沖縄

D. R. Fraser Taylor 教授

ISCGM 委員長



フォーラムセッション

地球地図フォーラム 2003 in 沖縄は、41カ国と7国際機関から200名以上の参加を得ました。傑出した技術プログラムには、30の発表と二つのパネル・ディスカッションが含まれています。地球地図フォーラム 2003の主な成果は、地球地図沖縄宣言が満場一致で採択されたことです。この重要な宣言の全文は、次ページに掲載されていますが、地球地図の目標と目的への新たな意気込みを表しています。「2007年までに地球地図の全球陸域整備を完成することによって、世界各国が個々にも、また共同して私たちの脆弱な環境を守り、将来の世代のために私たちの社会の発展がより一層持続可能で持続可能なものになるよう行動することを促進する空間的枠組みを作ることになるであろう。」（宣言抜粋）

この約束が確かであることは、フォーラム期間中に6カ国が自国のデータ公開を発表したことで示されました。プログラムでは、地球地図の応用と利用および地球地図を改善する方法に

かなりの注目が集まりました。

素晴らしい技術展示が科学プログラムを引き立たせました。中でも本フォーラムのハイライトは、国土地理院により併催された素晴らしい地図展を訪れた子供たちの熱意でした。子供たちがオンラインで地球地図にアクセスし利用する様子を見られたのは、非常に興味深い経験でした。地球地図が持続可能であるためには、子供たちの想像力を捉えることが鍵です。

フォーラム期間中、地球地図の入手を容易にしたり、百万分の1より大きな縮尺を認めることで小さな国々の参加を促進する等、地球地図の第2期計画に関して多くの議論がなされました。地球地図は単なる成果物ではありません。それは、世界各国や関係の国際機関が力を合わせるができる協力の過程であり、地球地図フォーラム 2003の主な成果は、将来にとってよい前兆であるその過程の強化であり、再び活性化させることでした。



テイラー委員長と小学生

地球地図沖縄宣言

（仮訳）

41 カ国 7 国際機関からの 200 名を超える参加者が、地球地図の発展と将来計画を討議するために、日本沖縄県宜野湾市の地球地図フォーラム 2003 で一堂に会した。参加者は 2003 年 7 月 14 日にフォーラムの最終セッションで以下の宣言を採択した。

1992 年の地球サミットにおいて、世界各国が全地球の持続可能な開発という展望に同意し、行動計画－アジェンダ 21 を採択したことを思い起こし、

アジェンダ 21 の実現を支援するために、技術協力を通じて世界のデジタル地図－地球地図－を西暦 2000 年までに作成するための地球地図国際運営委員会 (ISCGM) の構想が 1994 年日本の出雲で導入され、1996 年に正式に設立されたことを思い起こし、

さらに、広島で開催された地球地図フォーラム 2000 で、地球地図第 1 版の公開を祝すとともに地球地図の作成、更新、奨励のために各国各機関と協力する意思を再度表明する宣言がなされたことを思い起こし、

さらに、地球地図の必要性と ISCGM の活動が、2002 年 8 月南アフリカ・ヨハネスブルクで開催された持続可能な開発に関する世界首脳会議で認知され支持され、サミットの公式文書に記録されたこと、また ISCGM がタイプ 2 実施機関として承認されたことを思い起こし、

地球の全陸地表面の地球地図を整備するという ISCGM の目標を私たちは強く支持する。地球地図の作成と更新を約束した 130 カ国に敬意を表する。

同時に、様々な応用面で持続可能な開発に関わる利用者との協調を一層強化する必要性を認識する。このため、ワールドワイドウェブ上で地球地図をより簡単に利用できるようにし、他の全球的なデータセットとの連携を促進する方法を開発する。

地球地図に未参加の国々に強く参加を呼びかけ、地球地図を真に世界全体の地図にすることを呼びかける。

私たちは、沖縄県の人々の歓待に心から感謝する。沖縄諸島の美しさに象徴される地球環境のすばらしさを持続させ尊重することの重要性を再確認する。

2007 年までに地球地図の全球陸域整備を完成することによって、世界各国が個々にも、また共同して私たちの脆弱な環境を保存し、将来の世代のために私たちの社会の発展がより一層持続可能で持続可能なものになるように行動することを促進する空間的枠組みを作ることになるであろう。この点において、日本政府の支援とリーダーシップに感謝する。

第10回地球地図国際運営委員会会合

Karen D. Kline

ISCGM 事務局次長



ISCGM の4名の主要メンバー

第10回地球地図国際運営委員会会合が、日本国宜野湾市において、地球地図フォーラム2003に先だち開催されました。いくつかの重要な議題が審議されましたが、その概略を以下に述べます。

まず、6ヶ国（ボツワナ、ブルキナファソ、カザフスタン、キルギス、ミャンマー及びメキシコ）の地球地図第1.0版のデータが公開されました。これにより第1版のデータが公開された国は18カ国となりました。さらに、事務局は、委員会が他の国々のデータの事前公開を承認するよう要請しました。事前公開のデータは、第1版で公開されたデータが一連の品質管理を受けているのとは異なり、その過程を経ていません。結果として、事前公開されたデータは検証を施されていないという但し書きのもとで、より多くのデータがウェブサイトで入手可能となります。

また、事務局ではウェブ・マッピングで地球地図を提供する構想を紹介しました。この実施については現在詳細を検討中ですが、事務局は、ESRIのJack Dangermond氏が申し出たGISのポータル構築を含めて、選択肢の評価に前向きに取り組むつもりです。つまり、利用者は

ウェブ・マッピングにより、地球地図データをより簡単にダウンロードすることができるようになります。

次に、委員会の構成員についてISCGM規約が再検討され、以下のとおり改定されました。構成員には以下の4種類があります：委員（ISCGM委員長および国家地図作成機関または南極大陸のSCARなど、特定の地域に責任を持つ国際機関の代表）、提携機関の代表、顧問およびワーキング・グループの座長。委員には投票権があり、他の人々はISCGMの会合に参加し意見を述べることができます。提携機関になるための申し込み手順は現在事務局が整備中です。

仕様に関するワーキング・グループがインドを座長として復活しました。本ワーキング・グループは、新しい技術の開発を考慮に入れて地球地図のための仕様の改定に焦点をあてます。また、千葉大学の建石隆太郎博士が座長を務めるラスター・ワーキング・グループでは、ラスターデータ・レイヤーの仕様の整備に向けた活動を続けています。

決議文書を含めた本会合に関する詳細は、事務局にお問い合わせください。



テイラー委員長と中学生

第 10 回 ISCGM 会合決議 仮訳

日本国沖縄県宜野湾市

2003 年 7 月 11 日

1. 地球地図のデータ公開と参加

- a. ISCGM は、事務局の努力と、地球地図データを完成し、それを沖縄での地球地図フォーラム 2003 においてインターネット上で世界に公開した 6 カ国の参加国に感謝する。
- b. ISCGM は、データの利用を促進するためにできるだけ早く、適切なメタデータを伴った、地球地図仕様に完全には準拠しない、またはすべてのデータ・レイヤーを持たない地球地図データを公開することに合意する。
- c. 第 9 回 ISCGM 会合以降、地球地図バージョン 1.0 の整備には大きな進展があったが、自国の貢献部分が未完成な参加国は、完成するよう強く奨励される。
- d. 第 9 回 ISCGM 会合以降、地球地図の参加国数には恒常的な増加があったが、未参加国の参加を奨励する更なる努力がなされなければならない。

2. 持続可能な開発に関する世界サミット (WSSD)

- a. ISCGM は、WSSD に至る準備段階において、地球地図や地理情報処理が持続可能な開発に重要であることを宣伝するために、ISCGM 事務局、ISCGM 委員、および日本国政府によりなされた意義深い行動に感謝する。
- b. ISCGM は、タイプ II パートナシップ / イニシアティブの実施機関として、予算の獲得、適切な機関との提携関係の確立、地球地図プロジェクトへの参加の奨励および貢献にこの立場を利用することを決議する。
- c. ISCGM は、WSSD の実施機関として引き続き機会が与えられていることを踏まえて、CEOS および事務局が認めるその他の適切な活動などの WSSD フォローアップ活動へ引き続き参加することを決議する。

3. ウェブ・マッピングによるデータ提供

- a. ISCGM は、地球地図データの入手や利用を促進するために地球地図データをウェブ・マッピング技術で利用できるようにすることに合意する。
- b. ISCGM は、ウェブ・マッピング技術による地球地図の利用は非営利の利用とみなし、そのため、利用者のコンピュータへ送られたデータは地球地図データの単なるサブセットであると考え、利用者の認証を必要としないことに合意する。
- c. 事務局は、ポータルを創設し、ウェブ・マッピングを実施する方法を、ESRI が既存のグラント・プログラムの延長としてこの点を支援するために申し出たことを考慮に入れて考察すること。

4. 商業利用のためのデータ政策

ISCGM は、第 9 回 ISCGM 会合で合意されたように、事務局が管理する地球地図データ・ダウンロード・ページに記載された商業利用のためのデータ政策の修正を承認する。

5. 規約の改定

ISCGM は、委員 / 顧問の資格に関する規約の改定に合意するとともに、再検討し、新たに 1) 委員、2) 提携機関の代表、3) 顧問および 4) ワーキンググループの座長と分類した。委員は委員長および国家地図作成機関もしくは一定の地域を担う国際機関の代表とする。委員のみが投票権を有するが、他の者は委員会会合に出席し、議論に参加することができる。

6. 仕様

ISCGM は、地球地図仕様を改定するために、地球地図仕様についての本会合での議論点に留意し、インドを座長として、ワーキンググループ 2 の再開に合意する。WG4 は、地球地図のために整備された仕様の全体的な枠組みの範囲内で、ラスター・データの仕様整備のリーダーシップを執る。

7. 全球のラスター・データ整備

ISCGM は、ワーキンググループ 4 座長の建石隆太郎博士が行ったメンバーの募集およびワーキンググループのための行動計画の作成作業に感謝する。

8. 第 2 期計画

地球地図第 1 版の完成のための 100 万分の 1 のデータの重要性は認めるが、ISCGM は場合により、大縮尺のデータの提出を希望する国々を支持する。独自のラスター・データを作成しようとする国については、それを奨励する。

9. 人材育成

- a. 地球地図整備の促進には人材育成が極めて重要であることを踏まえ、ISCGM は、日本国政府の地球地図パートナーシップ・プログラムが運営したケニア・ナイロビにおける地球地図セミナーの貢献に対し厚く感謝の意を表す。ナイロビ・セミナーにおける地球地図 / 全地球空間データ基盤グラント・プログラムの関与についても感謝する。
- b. ISCGM は、1994 年以来毎年開催される JICA 地球地図集団研修コースの役割に感謝し、地球地図にさらに貢献できるように必要に応じて改定を行い、コースの継続を強く要求する。JICA 研修コースの参加者の地球地図の完成に至る貴重な貢献を認め、ISCGM は、事務局の JICA 集団研修コースの継続のための予算獲得の支援を行うことを決議する。

10. 提携

- a. ISCGM は、関係機関やイニシアティブとの提携の促進を歓迎する。
- b. ISCGM は、ISCGM 委員や ISCGM 事務局が ISCGM を代表し、多くの国際会議において地球地図を宣伝した努力に心から感謝し、引き続き機会をとらえて地球地図を促進する努力を行うよう奨励する。

11. 地球地図 /GSDI グラント

ISCGM は、ESRI の Jack Dangermond 氏によ

り、John E. "Jack" Estes 教授を記念して創設された地球地図 /GSDI グラントに、引き続き心から感謝する。

12. 地球観測サミット

2003 年 6 月に G8 サミットで提唱された全球観測のための実施計画の整備を踏まえ、また地球観測データおよび関連活動の価値を踏まえて、2003 年 7 月 31 日に開催される地球観測サミットの自国の代表に、地球観測データの収集および配布のための実施のメカニズムとしての地球地図の価値について伝達するよう委員に奨励することを決議する。

13. ALOS/NASDA

ISCGM は、地球地図の目的のためにリモートセンシング・データ、特に、ALOS 衛星のデータを利用する要望を再び述べ、そのために国土地理院が NASDA と検討することを強く支援する。

14. 今後の会合

ISCGM は、2004 年 2 月 7 日にバンガロールにおいて、第 7 回 GSDI 会議と併せて、第 11 回 ISCGM 会合を開催するというインド測量局からの提案に謝意を表す。

15. 感謝の決議

ISCGM は、日本国沖縄県宜野湾市において第 10 回 ISCGM 会合を開催するための国土地理院の支援に心から謝意を表す。また、沖縄コンベンションセンターの心からの支援にも感謝する。



第 10 回 ISCGM 会合参加者

ケンブリッジでの熱い討議

－ケンブリッジ会議 2003－

丸山 弘通

ISCGM 事務局長



ケンブリッジ会議での熱い討議

ケンブリッジ会議は、オードナンス・サーベイの主催により 2003 年 7 月 21 日～25 日まで、英国ケンブリッジのセント・ジョンズ・カレッジにおいて開催されました。71 カ国から 170 名以上の参加者が一同に会し、今回の会議のテーマの「国家地図作成－将来を形作る」について討議しました。国家地図作成機関に関する問題について、資金、民間部門との提携、テクノロジー、地球規模の問題および国家地図作成機関の転換など、多方面から議論が行われました。

2 件の発表が地球地図に焦点をあてました。1 件はセッション 2 「変化する世界における国家地図作成の重要性」において、私が発表を行った「持続可能な開発のための国家地図作成機関の責任」でした。この発表では、持続可能な開発に関する世界首脳会議 (WSSD) において、地球地図が測量・地図分野からの持続可能な開発のための具体的な行動として高く評価されましたが、「WSSD 実施計画」に詳しく述べられている持続可能な開発の実施において国家地図作成機関がきわめて重要な役割を担える領域がまだ幅広くあることを強調しました。

ISCGM 委員長の D. R. フレーザー・テイラー教授は、セッション 6 の「地球規模の問題」で「百万分 1 国際図と地球地図：歴史は繰り返すだろ

うか？」を発表しました。彼は百万分 1 国際図と地球地図を比較し、地球環境の保全は地球のすべての国々が協力できる課題であり、地球地図はそれを主目的としているために成功していることを強調しました。各国の利害が国際協力にまさった百万分 1 国際図ではこうしたことは起こりませんでした。

地球地図は、この 2 件の発表のほかに、オードナンス・サーベイ院長兼最高経営責任者のバネッサ・ローレンス氏の開会の言葉など、多くの発表者により言及されました。地球地図構想は、このプロジェクトへの参加が活発でない地域はまだあるものの、現在、世界中のほとんどの国家地図作成機関に広く行きわたっていると思われます。

正規の会議プログラムに加えて、地球地図に関する会合が、7 月 24 日、正規会合の開始前に行われました。この会合は、日本に来ることができなかった人々向けに、沖縄で開催されたばかりの ISCGM10 と地球地図フォーラム 2003 の成果を報告するために、開催されました。会合は早朝に始まりましたが、19 カ国から 23 名の参加を得、特にアフリカや小さな島国からの参加者が目立ちました。地球地図プロジェクトへ未参加の国から何人かの参加者があったため、今後、参加国数の増加が期待されます。



地球地図に関する会合

空間データ基盤の整備に向けた決議を採択 第16回国連アジア太平洋地域地図会議が日本で開催される

南 秀和
国土地理院

第16回国連アジア太平洋地域地図会議（UNRCC-AP）が2003年7月14日から18日まで沖縄で開催されました。第16回UNRCC-APは、「新しいステージへの展開—アジア太平洋地域の持続可能な開発のための空間データ基盤」というテーマで開催され、48ヶ国・地域及び世界各国の空間データ基盤分野の主要な機関から約210名の代表とオブザーバーが参加しました。

開会（1日目午後）

初めに、デブリス国連統計部副部長が開会を宣言し、空間データ基盤整備に関して、未来の挑戦のみならず、その重要性和現在の努力について導入の言葉を述べました。続いて中馬弘毅国土交通副大臣及び稲嶺恵一沖縄県知事より参加者への心からの歓迎と感謝の挨拶がありました。次に、小野川和延国連地域開発センター（UNCRD）所長が「環境管理と情報の利用」と題する基調講演を行い、国連が開発した地球資源情報データベース（GRID）の経験について述べました。彼は地理情報が環境管理に非常に重要であり、様々な形で表わされるべきであると強調しました。



開会

招待講演（2日目～4日目午前）

29名の招待講演者により以下の5つのセッションが行われました。

- ・ 全球／地域／国家空間データ基盤の問題
- ・ 国際機関の取り組み
- ・ 国家空間データ基盤の発展における経済的問題

- ・ 人材育成と教育
- ・ 空間データの収集、管理及び配布

地球地図国際運営委員会のD. R. フレーザー・テイラー教授は「地球地図と空間データ基盤：地理空間データ普及のための展開と挑戦」と題して講演を行い、地球地図の当初の概念から現在の状況までの進展を述べ、各国に参加を呼びかけました。そして、米国ナショナル・アカデミーがまとめたアフリカに関する研究を引き合いに、地球地図が直面している困難について説明しました。利用者の整備の要求に応えること及び人的資本と社会資本が鍵となる要因です。更に、トレーシー・ローリオルトが行った東ティモールの事例研究を紹介し、空間データ基盤の整備が国家の整備の要求に寄与すると述べました。出発点は、東ティモールの人々が彼ら自身の運命をより大きく支配できるようにするために、既存の取り組みを調整し、人材育成と制度面での能力を構築することです。

技術委員会（4日目午後）

以下のテーマで3つの委員会が同時に開催されました。

- ・ 委員会Ⅰ「開発ニーズと制度的能力開発」
- ・ 委員会Ⅱ「基盤データ：統合的な取り組みでのデータ収集と管理」
- ・ 委員会Ⅲ「アジア太平洋地域における空間データ基盤とその整備」

決議の採択及び閉会（5日目午前）

7つの決議が採択され、閉会しました。

採択された決議の標題は以下のとおりです。

1. アジア太平洋地域の空間データ基盤（APSDI）
2. 地域測地活動
3. 基盤データ
4. 地籍と空間データ基盤
5. 能力開発
6. 第17回国連アジア太平洋地域地図会議
7. ホスト国への謝意

PCGIAP 地籍ワークショップ

南 秀和
国土地理院

アジア太平洋地域 GIS 基盤常置委員会 (PCGIAP) 地籍ワークショップが国連アジア太平洋地域地図会議に先だち 2003 年 7 月 12 日～13 日に開催されました。

ワークショップの目的は、地籍活動が国家及び国土空間データ基盤で果たす役割を理解し、地籍活動が空間データ基盤の鍵となる要素であり、それを改善するための基礎として、最も良い方法を比較することです。

会議には 25 ヶ国から 45 人が参加しました。15 ヶ国から各国の地籍システムについての報告があり、参加者は同地域の地籍に関する重要な事項、特に

空間データ基盤整備での地籍と土地管理の役割に関する問題について議論しました。



ワークショップ参加者

新しく公開された地球地図データ

2003 年 7 月 12 日に公開されたボツワナ、ブルキナファソ、カザフスタン、キルギス、メキシコ及びミャンマーを含む 18 カ国の地球地図データがウェブに掲載されています。

地球地図及び関連の会議

2003 年

- 10 月 21 日～22 日、日本、京都
ISPRS 第 7 部会第 6 ワーキンググループ
国際ワークショップ Monitoring/Modeling
Global Environmental Change
- 10 月 22 日～24 日、ケニア、ナイロビ
第 4 回国連地理情報ワーキンググループ
(UNGIWG) 本会議
- 10 月 27 日～31 日、ドイツ、ベルリン
第 17 回 ISO/TC211 本会議
WG 及び EC 会合
- 11 月 3 日、セネガル、ダカール
"NEPAD の情報の要求に応えるための入手可能な全
球ランドサット・データの利用"に関する専門家会合
- 11 月 4 日～8 日、セネガル、ダカール
アフリカ GIS'03 会議 / 展示会
- 11 月 24 日～26 日、アルゼンチン、コルドバ
"洪水及び火災管理のための宇宙関連技術"に関
する専門家会議

- 12 月 10 日～12 日、スイス、ジュネーブ
情報社会に関する世界サミット
- 12 月 13 日～17 日、サウジアラビア、リヤド
サウジアラビアにおける宇宙関連技術及び災害
管理ワークショップ

2004 年

- 1 月 30 日～31 日、インド、バンガロール
第 10 回 PCGIAP 会合
- 2 月 2 日～6 日、インド、バンガロール
第 7 回 GSDI 会議
- 2 月 7 日、インド、バンガロール
第 11 回 ISCGM 会合
- 7 月 12 日～23 日、トルコ、イスタンブール
第 20 回 ISPRS 会議
- 11 月 7 日～10 日、ドイツ、ベルリン
第 19 回国際 CODATA 会議

編集・発行：地球地図国際運営委員会事務局

連絡先：〒305-0811 茨城県つくば市北郷1番 国土地理院

Tel: 029-864-6910 Fax: 029-864-6923

ホームページ: <http://www.iscgm.org/>

E-mail: sec@iscgm.org